琉球大学学術リポジトリ

# 子どものライフスタイルと心理社会的学校環境およびメンタルヘルスに関する比較研究：長崎県および沖縄県における都市部と離島部の小学５，６年生を対象として



| メタデータ | 言語: |
| --- | --- |
| | 出版者: 琉球大学教育学部附属教育実践総合センター |
| | 公開日: 2008-04-14 |
| | キーワード (Ja): |
| | キーワード (En): |
| | 作成者: 小林, 稔, 高倉, 実, 原田, 純治, 村田, 義幸, 吉葉, 研司, Kobayashi, Minoru, Takakura, Minoru, Harada, Jyunji, Murata, Yoshiyuki, Yoshiba, Kenji |
| | メールアドレス: |
| | 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/5634 |

# 子どものライフスタイルと心理社会的学校環境およびメンタルヘルスに関する比較研究：

## 長崎県および沖縄県における都市部と離島部の小学５，６年生を対象として

# Comparative Research on Children's Mental Health, Lifestyles and the Psycho-social School Environment: 5th and 6th Grade Elementary School Children from Cities and Remote Islands in Nagasaki and Okinawa Prefectures

小林稔*・髙倉実**・原田純治***・村田義幸***・吉葉研司*

Minoru KOBAYASHI*, Minoru TAKAKURA**, Jyunji HARADA***, Yoshiyuki MURATA*** and Kenji YOSHIBA*

**Abstract**

We conducted surveys on 5 and 6 grade Elementary School children in Nagasaki Prefecture, and in both cities and remote islands in Okinawa Prefecture of Japan, in order to clarify current lifestyles, mental health (depression trends, interpersonal stress, feelings of inefficiency and tempestuousness) and the psycho-social school environment of children in remote islands. This research aims to investigate correlations between the mental health, lifestyles and psycho-social school environment of children in remote islands. T-test results for lifestyle showed boys in remote islands get up earlier and spend less time on the computer, playing with parents and exercising. Girls in remote islands sleep earlier, eat more by not leaving leftovers, exercise more outside class, spend less time studying outside school hours and have a greater awareness of their grades. Also, both boys and girls in remote islands tend to have more siblings and participate more in local events.

In regard to the psycho-social school environment, girls in remote islands showed a significantly higher level of satisfaction with their school, and children in remote islands were more likely to feel that their school environment was 'comfortable'. Concerning components of mental health, boys in remote islands demonstrated significantly higher interpersonal stress, and girls tended to have significantly stronger feelings of inefficiency. Also, in regard to correlations between mental health, lifestyle and the psycho-social school environment, both boys and girls produced low though significant correlations over several items. In particular, significant correlations were found between mental health and satisfaction with school in many items for boys in cities and girls in remote islands, suggesting that satisfaction with school is an important factor in children's mental health.

* 琉球大学教育学部　Faculty of Education, University of the Ryukyus
** 琉球大学医学部　Faculty of Medicine, University of the Ryukyus
*** 長崎大学教育学部　Faculty of Education, Nagasaki University

## Ⅰ．はじめに

「島国日本」とよく表現されるが、国土交通省のホームページによるとわが国には6,852の島があり、このうち本州、北海道、四国、九州および沖縄本島の５島を除く6,847が離島である（http://www.mlit.go.jp /crd /chirit/）。すなわち、我が国は島で成り立っている国であり、島の集合体、あるいは島を構成要素とする国家と言っても過言ではない。当然のことながら、前述した5島には多くの都市部があり、同じ国に属しながら他の離島部とは自然環境や社会環境あるいは経済的状況に関してさまざまな点で異なる場合が多い。近年、離島は経済水域や海洋資源の確保等、わが国の国土保全に大きな役割を果たしているほか、豊かな自然環境や文化・歴史的遺産が国民の健康保養や癒しの場を提供するなど、その役割と重要性はますます大きくなっている。しかし、離島には、最近の格差社会における弱者の地域としての立場、つまり全般的に自治体の財政が厳しく、加えて少子高齢化が加速的に進んでいたり、人口減少率が著しかったりする共通の問題を抱えている。筆者ら[1]はこのような現状における離島の子ども理解を深化させる一つの方法として、沖縄県における離島（竹富町）の小学生を対象に、メンタルヘルスとライフスタイルの現状およびそれらと体力の関連について検討した。その結果、離島の子どもは全国と比較して、中等度や高強度の運動実施時間が少なかったり、体力とメンタルヘルスの間に中程度の有意な相関が見られたりし、体力があるほどメンタルヘルスが良好であることが示唆された。また、田原ら[2]は、長崎県五島列島中部島嶼地域の児童・生徒の体格および体力の特徴として、近年、体格による地域差はなくなっているものの、住居地域の自然環境を背景として、体力に関して小学生期においては、離島部の子どもの方が優位であることを指摘した上で、授業研究や生活時間調査などの方向からさらに検討すべき内容であると述べている。このように量的には少ないが離島の子ども理解に関していくつかの研究が進められている。しかし、筆者らの先行研究で対象とした離島は、人口流入が流出を継続的に上回っている地域である。つまり、人口統計学的に離島としては異質な地域である沖縄県における竹富町という１自治体（地域）のみの小学生を調査対象としたことに加えて、比較したデータが全国データであったため、当然その中には離島地域の子どものサンプルが含まれており、一般的な離島の「子どもの心と体」に関して明確な特徴を見いだそうとする研究としては不十分な研究デザインであった。また、他の先行研究においても離島研究に関するさまざまな方法論上の限界が見られる。したがって、その限界をできるだけ取り払い厳密な意味で離島の子ども理解を図るには、更なる調査方法論上の工夫が求められるところである。これまで以上に離島地域の子どもの心と体についてその現状を論究するには、離島部とまったく正反対の地域と比較をしたり、１地域ではなく、複数の地域の子どもを対象としたりするなど、より精緻で発展させた計画による調査研究の実施が必要となる。さらに、今後子ども理解にとって重要なことは、子どもに強く影響する要因を探索した上で解明していくことではないだろうか。すなわち、子どもの１日の生活はそのほとんどを学校で過ごしており、学校環境と子どもの心身の関連性を究明することはきわめて大切である。具体的には、学校環境の中でも心理社会的環境に対する認知の重要性が強調され[3][4]、支援的・受容的な学校環境は子どもの保健行動や主観的健康、well-being の発達の資源となり、一方、非支援的・ネガテイブな学校環境は、これらの危険因子となることが示唆されており[5][6]、心理社会的学校環境の視点に立った子ども理解の究明が望まれるところである。

本研究は、長崎県と沖縄県における都市部と離島部の小学校高学年生を対象とし、データ収集・分析することによって、離島における子どもの基本的なライフスタイルと心理社会的学校環境およびメンタルヘルスに関する実態を明らかにするとともに、ベースラインデータを記述し、その関連を検討することを主な目的とする。

## Ⅱ．方法

### 1．対象

本調査に協力理解の得られる学校を選定し調査依頼した上で、長崎県における３公立小学校（都市部１校、離島部２校）の５年生147名、６年生147名および沖縄県における12公立小学校（都市部２校、離島部10校）の５年生221名、６年生208名を調査分析対象者（表１）とした。

表１．県、学年、性および地域別分析対象者数

| 県 | 学年 | 性別 | 地域 | 分析対象者数 |
|---|---|---|---|---|
| 沖縄県 | ５年生 | 男子 | 那覇市 | 54 |
| | | | 離島部 | 56 |
| | | 女子 | 那覇市 | 63 |
| | | | 離島部 | 58 |
| | ６年生 | 男子 | 那覇市 | 55 |
| | | | 離島部 | 56 |
| | | 女子 | 那覇市 | 44 |
| | | | 離島部 | 53 |
| 長崎県 | ５年生 | 男子 | 長崎市 | 51 |
| | | | 離島部 | 27 |
| | | 女子 | 長崎市 | 52 |
| | | | 離島部 | 17 |
| | ６年生 | 男子 | 長崎市 | 61 |
| | | | 離島部 | 29 |
| | | 女子 | 長崎市 | 36 |
| | | | 離島部 | 21 |

### 2．調査期間と手続き

沖縄県では平成18年６月中旬～７月中旬、長崎県においては同年７月に調査を実施した。また、教室内で学級あるいは学年単位を原則として、担任の指示のもと自記式の質問紙調査を用いて行った。

### 3．調査内容

本調査に適用したライフスタイルと心理社会的学校環境に関する質問項目は、主として1997/1998年HBSC（WHOにおけるHealth Behavior School-aged Children Studyの略）調査票で使用された内容を邦訳したものの一部[7]で、生活習慣16項目、学業成績認知１項目、家族構成２項目、両親認知２項目、学校満足（心理社会的学校環境）３項目から成り、また、メンタルヘルスに関しては、お茶大式学校メンタルヘルス尺度短縮版の４尺度（抑うつ傾向、対人緊張、非効力感、衝動性）12項目[8]を使用した。その他、アレルギー体質2項目と年齢、体格およびクラスの児童数に関する基本属性４項目の計41項目を用いた。項目の詳細は以下の通りである。

生活習慣に関して「入眠時刻」と「起床時刻」については、直接あてはまる回答を分単位まで記入させた。また、「今朝、起きた時は、すっきり目がさめましたか。」「あなたは、ふだん、朝食を食べますか。」「あなたは放課後、学校での課外活動（部活動など）に参加していますか。」「あなたは学校以外で習い事や活動（学習塾を除く）に参加していますか。」および「大便は毎日どのように出ますか。」の５項目では、それぞれ１）すっきり目がさめた～３）眠くてなかなか起きられなかった（以下においても左に記した回答番号が１）である)、「毎日食べる」～「まったく食べない」、「参加していない」「運動・スポーツ系」「運動スポーツ系以外」、「毎日ほとんど同じ頃にでる」～「数日でないことがある」の３件法で評定し、また、「あなたは、ふだん、野菜をどのくらい食べますか。」「食事を残すことがありますか。」「あなたの主な通学方法は次のうちどれですか。」「あなたは地域行事（地域の子ども会、運動会、お祭りなど）に参加しますか。」および「あなたは、ふだんどのくらいお父さんやお母さんといっしょに外遊びや運動をしていますか。」（長崎県においては、「あなたは、ふだんどのくらい家の人といっしょに外遊びや運動をしていますか。」）の５項目では、各々「たくさん食べる」～「ほとんど食べない」、「よくある」～「ほとんどない」、「徒歩」「バス」「自家用車」「その他」、「よく参加する」～「見るだけ」および「とてもよくする」～「まったくしない」の４件法で評定した。「あなたは、ふだん、１日に何時間、テレビやビデオ・DVDを見ますか。」と「あなたは、ふだん、１日に何時間、コンピュータ（ゲーム、ゲームボーイ、インターネットなど）を使いますか。」の項目では、「まったくみない、あるいはしない」～「１日７時間以上」の９件

法で尋ねた。「あなたは、ふだん、授業以外で、息切れをしたり汗をかいたりするくらいの運動を1週間に何時間しますか。」の項目では、「ぜんぜんしない」～「週に7時間以上」の6件法で、また、「あなたは現在、塾や家庭教師など学校以外のところで勉強していますか。」の項目では、「はい」「いいえ」の2件法により評定した。

学業成績認知の1項目は、「最近の12ヶ月間で学校でのあなたの成績は、どうだったと思いますか。」で、「非常に悪い」～「とても悪い」の5件法で評定した。

家族構成は、「いっしょに住んでいるご家族は、あなたを含めて何人ですか。」と「あなたのきょうだいは、あなたを含めて何人ですか。」の2項目で、直接、あてはまる人数を記入させた。両親認知は、「あなたのお父さんは、どのくらいやさしいですか。あるいは、こわいですか。」「あなたのお母さんは、どのくらいやさしいですか。あるいは、こわいですか。」の2項目で、「とてもやさしい」～「とてもこわい」の4件法を用いた。(ただし、長崎県の都市部校と離島部の1校については、家族構成項目を除外するとともに、両親認知に関しては長崎県の3校とも調査を実施しなかった。)

学校満足に関して、「あなたは、現在、学校生活についてどう思っていますか。」の1項目については、「とても好き」～「まったく好きではない」の4件法で、「私たちの学校はいごこちがよい(快適な)ところだ。」と「私は、この学校の一員であると感じている。」の2項目では、「とてもそう思う」～「まったくそう思わない」の5件法で評定した。

また、基本属性に関する質問項目は、「今、あなたは何歳ですか。」「今、あなたの身長はだいたいどのくらいですか。」「今、あなたの体重はだいたいどのくらいですか。」および「最後に、今、あなたのクラスは男女合わせて何名ですか。」の4項目で、直接あてはまる数字を回答させた。(ただし、長崎県の都市部校と離島部の1校については、体格およびクラスの児童数を除外するとともに、残る離島部1校については、個人に対してクラスの児童数に関する調査を実施しなかった。)

お茶大式学校メンタルヘルス尺度短縮版の各下位尺度3項目に関して、抑うつ傾向尺度は、「このごろ、ちょっとしたことで悲しい気持ちになる。」「泣きたいような気がする。」「このごろ、つらい気持ちになることが多い。」、対人緊張は「たくさんの人がいると、おどおどしてしまう。」「みんながおしゃべりしている中に、自分から入っていけない。」「新しい友だちと会うと、とても緊張する。」、非効力感は、「いくら努力してもダメなことが多い。」「私には、じまんできるところがない。」「自分は役にたたない人間だと思う。」、衝動性は「気にいらないことがあると、あたりちらすことがある。」「たいした理由もなく、かっとなることがある。」「頭にきて、物をこわしたくなることがある。」であり、各々「全くあてはまらない」～「とてもよくあてはまる」の5件法で評定した。すなわち、この尺度は得点が高いほどメンタルヘルスが悪い方向を示唆する。

### 4. 統計分析

評定尺度法で得られた回答番号をそのまま得点化するとともに、データ解析にあたっては、SPSS 11.0J for Windows を使用し、対応のない平均値の差の検定(t検定)および相関分析(Peason)を実施した。本分析における有意水準は5%未満とした。

## Ⅲ. 結果

### 1. ライフスタイルと心理社会的学校環境に関する都市部と離島部の比較

ライフスタイルと心理社会的学校環境に関する都市部、離島部の平均値と標準偏差およびt検定の結果を男子については表2、女子は表3に示した。男子では、「入眠時刻」「1日のコンピュータ実施時間」「兄弟姉妹数」「地域行事の参加頻度」「親との外遊びと運動時間」の項目で都市部と離島間に有意な差が見られ、離島の方が、夜寝るのが早く、コンピュータの実施時間が少なく、また、兄弟姉妹数が多く、地域行

表2．ライフスタイルと心理社会的学校環境に関する都市部と離島部の平均値と標準偏差およびt検定の結果（小学5，6年生男子）

| | 都市部 | | | 離島部 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | n | Mean | SD | n | Mean | SD | t | *p* |
| 1 ふだん夜、何時頃寝ますか？ | 218 | 22.3(22時17分) | 0.85 | 168 | 22.3(22時19分) | 0.90 | 1.55 | .637 |
| 2 ふだん朝、何時頃起きますか？ | 220 | 6.8(6時46分) | 0.42 | 168 | 6.6(6時38分) | 0.49 | 3.87 | .011* |
| 3 今朝、すっきり目が覚めましたか？(1～3) | 217 | 1.8 | 0.61 | 167 | 1.7 | 0.63 | 1.44 | .151 |
| 4 ふだん、朝食をどのくらい食べますか？(1～3) | 220 | 1.1 | 0.42 | 167 | 1.2 | 0.43 | −1.32 | .187 |
| 5 ふだん、やさいをどのくらい食べますか？（1～3） | 220 | 1.9 | 0.76 | 167 | 1.8 | 0.68 | 0.62 | .538 |
| 6 食事を残すことがありますか？（1～4） | 219 | 2.8 | 0.80 | 167 | 2.9 | 0.87 | −1.00 | .316 |
| 7 1日に何時間、TV、ビデオ、DVDを見ますか？(1～9) | 213 | 5.1 | 1.98 | 165 | 4.8 | 1.91 | 1.42 | .155 |
| 8 1日に何時間、コンピュータ(ゲームを含む)をしますか？(1～9) | 216 | 3.2 | 1.93 | 166 | 2.8 | 1.39 | 2.49 | .013* |
| 9 授業以外で運動を1週間に何時間しますか？(1～6) | 217 | 4.6 | 1.55 | 162 | 4.5 | 1.67 | 0.60 | .552 |
| 10 学校生活をどう思っていますか？（1～4） | 217 | 1.9 | 0.75 | 166 | 1.8 | 0.81 | 0.21 | .832 |
| 11 塾や家庭教師など学校以外で勉強していますか？(1～2) | 220 | 1.7 | 0.47 | 163 | 1.8 | 0.42 | −1.86 | .064 |
| 12 最近の12ヶ月間で、学校でのあなたの成績はどうだったと思いますか？(1～5) | 217 | 2.8 | 0.80 | 166 | 2.7 | 0.88 | 1.16 | .249 |
| 13 家族の人数（本人を含めて）は何名ですか？ | 109 | 4.9 | 1.58 | 159 | 4.9 | 1.37 | −0.02 | .988 |
| 14 きょうだいの人数(本人を含めて)は何名ですか？ | 108 | 2.8 | 1.09 | 158 | 3.1 | 1.19 | −2.08 | .038* |
| 15 お父さんはどのくらい「やさしい」か「こわい」か？(1～4) | 98 | 1.9 | 0.82 | 103 | 2.1 | 0.85 | −1.85 | .065 |
| 16 お母さんはどのくらい「やさしい」か「こわい」か？(1～4) | 107 | 1.7 | 0.68 | 105 | 1.9 | 0.64 | −1.95 | .053 |
| 17 地域行事にどのくらい参加しますか？（1～4） | 217 | 1.8 | 0.80 | 165 | 1.4 | 0.68 | 5.02 | <.001*** |
| 18 ふだんお父さんやお母さんとどのくらい外遊びや運動をしますか？(1～4) | 216 | 2.3 | 0.79 | 166 | 2.6 | 0.94 | −3.24 | .001** |
| 19 大便は毎日どのようにでますか？（1～3） | 208 | 1.5 | 0.56 | 160 | 1.6 | 0.63 | −0.97 | .335 |
| 20 私たちの学校はいごこちがよい(快適な)ところだ。(1～5) | 219 | 2.5 | 1.17 | 162 | 2.4 | 1.22 | 0.86 | .391 |
| 21 私は、この学校の一員であると感じている。(1～5) | 218 | 2.2 | 1.21 | 163 | 2.2 | 1.22 | 0.03 | .978 |

***$P<.001$，　**$P<.01$，　*$P<.05$

表3．ライフスタイルと心理社会的学校環境に関する都市部と離島部の平均値と標準偏差およびt検定の結果（小学5，6年生女子）

| | 都市部 | | | 離島部 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | n | Mean | SD | n | Mean | SD | t | *p* |
| 1 ふだん夜、何時頃寝ますか？ | 194 | 22.6(22時36分) | 0.81 | 149 | 22.3(22時20分) | 0.69 | 2.53 | .012* |
| 2 ふだん朝、何時頃起きますか？ | 194 | 6.7(6時44分) | 0.45 | 148 | 6.7(6時41分) | 0.37 | 1.07 | .286 |
| 3 今朝、すっきり目が覚めましたか？(1～3) | 193 | 1.9 | 0.62 | 147 | 1.8 | 0.59 | 0.79 | .429 |
| 4 ふだん、朝食をどのくらい食べますか？(1～3) | 194 | 1.2 | 0.42 | 147 | 1.1 | 0.31 | 1.41 | .161 |
| 5 ふだん、やさいをどのくらい食べますか？（1～3） | 193 | 1.8 | 0.71 | 149 | 1.8 | 0.71 | 0.03 | .980 |
| 6 食事を残すことがありますか？（1～4） | 193 | 2.5 | 0.89 | 146 | 2.8 | 0.97 | −2.27 | .024* |
| 7 1日に何時間、TV、ビデオ、DVDを見ますか？(1～9) | 192 | 5.1 | 1.99 | 146 | 4.7 | 1.81 | 1.63 | .105 |
| 8 1日に何時間、コンピュータ(ゲームを含む)をしますか？(1～9) | 190 | 2.2 | 1.30 | 149 | 2.1 | 1.55 | 0.37 | .710 |
| 9 授業以外で運動を1週間に何時間しますか？(1～6) | 192 | 3.5 | 1.75 | 146 | 4.1 | 1.77 | −3.20 | .002** |
| 10 学校生活をどう思っていますか？（1～4） | 192 | 1.9 | 0.80 | 148 | 1.8 | 0.75 | 1.77 | .078 |
| 11 塾や家庭教師など学校以外で勉強していますか？(1～2) | 192 | 1.6 | 0.50 | 148 | 1.7 | 0.46 | −2.70 | .007** |
| 12 最近の12ヶ月間で、学校でのあなたの成績はどうだったと思いますか？(1～5) | 194 | 2.9 | 0.74 | 149 | 2.7 | 0.72 | 2.77 | .006** |
| 13 家族の人数（本人を含めて）は何名ですか？ | 105 | 4.9 | 1.41 | 138 | 5.0 | 1.38 | −0.93 | .355 |
| 14 きょうだいの人数(本人を含めて)は何名ですか？ | 105 | 2.7 | 1.08 | 139 | 3.1 | 1.14 | −2.81 | .005** |
| 15 お父さんはどのくらい「やさしい」か「こわい」か？(1～4) | 96 | 1.9 | 0.73 | 103 | 1.9 | 0.77 | −0.24 | .809 |
| 16 お母さんはどのくらい「やさしい」か「こわい」か？(1～4) | 100 | 1.8 | 0.73 | 105 | 1.9 | 0.88 | −0.58 | .563 |
| 17 地域行事にどのくらい参加しますか？（1～4） | 193 | 1.9 | 0.89 | 149 | 1.4 | 0.66 | 5.94 | <.001*** |
| 18 ふだんお父さんやお母さんとどのくらい外遊びや運動をしますか？(1～4) | 192 | 2.3 | 0.78 | 147 | 2.4 | 0.92 | −1.44 | .152 |
| 19 大便は毎日どのようにでますか？（1～3） | 178 | 1.8 | 0.67 | 135 | 1.7 | 0.62 | 0.94 | .346 |
| 20 私たちの学校はいごこちがよい(快適な)ところだ。(1～5) | 194 | 2.4 | 0.98 | 148 | 2.2 | 0.97 | 2.21 | .028* |
| 21 私は、この学校の一員であると感じている。(1～5) | 192 | 2.4 | 1.17 | 147 | 2.2 | 1.12 | 1.50 | .135 |

***$P<.001$，　**$P<.01$，　*$P<.05$

事にも多く参加しており、親との外遊びや運動時間が多いことが明らかになった。女子においては、「入眠時刻」「食事の残量」「授業以外での運動時間」「学校以外での学習機会」「学業成績認知」「兄弟姉妹数」「地域行事の参加頻度」「学校の居心地」の項目で同様に有意な差が認められ、離島の子どもの方が、都市部の子どもと比較して、夜、寝るのが早く、食事を残さず、授業以外での運動時間も多く、また、学業成績認知も高く、兄弟姉妹数が多く、地域行事にも多く参加しており、学校を快適だと考えている子どもが多いことが判明した。しかしながら、学校以外での学習機会は、離島の子どもの方が少なかった。以上より、男女ともに共通して都市部、離島間で有意な差があった項目は、「兄弟姉妹数」、「地域行事の参加頻度」であった。総じてみると、ライフスタイルと心理社会的学校環境に関しては、男女とも離島の子どもの方が良好であることが伺えた。

### 2．メンタルヘルスに関する都市部と離島部の比較

メンタルヘルスに関する都市部と離島部の平均値と標準偏差およびｔ検定の結果を表４に示した。男子では「対人緊張」の下位尺度で都市部と離島部間に有意な差が見られ、離島の子どもの方が得点は高かった。また、女子では「非効力感」において同様に有意な差が認められ、逆に、離島の子どもの方が得点は低かった。前述したように、本メンタルヘルス尺度は得点が高いほどメンタルヘルスが優れないことを示唆しているため、離島部の男子においてはメンタルヘルスの下位尺度である「対人緊張」が都市部の子どもに比べて、良くない結果であったと言える。他方、女子の非効力感については、離島の子どもの方が優れていると判断できよう。

### 3．メンタルヘルスとライフスタイルおよび心理社会的学校環境の関連

メンタルヘルスとライフスタイルおよび心理社会的学校環境の関連を検討し、都市部と離島部の比較を行うため地域別に相関分析を行った（表５）。まずは、ライフスタイルに関して都市部と離島部を比較すると、男子において都市部は「目覚め」の項目ですべての下位尺度と低い有意な相関が認められたのに対し、離島部は対人緊張と衝動性のみであった。同様に、「朝食摂取」では都市部では対人緊張以外の３下位尺度（抑うつ傾向、非効力感、衝動性）と有意な低い相関が認められたのに対し、離島部ではメンタルヘルスの下位尺度との間にはまったく有意な相関はなかった。また、この項目の女子において都市部では４下位尺度すべてで有意な低い相関が認められたのに対し、離島部では抑うつ傾向と非効力感のみであった。「コンピュータ使用時間」に関しても、都市部の男子においては、抑うつ傾向を除く３下位尺度（対人緊張、非効力感、衝動性）で有意な低い相関が見られ、同じ項目の女子においては、男子と同様に都市部で抑うつ傾向を除く３下位尺度で有意な低い相関が認められた。また、「授業以外での運動時間」の項目では、都市部の女子において対人

表４．メンタルヘルスに関する都市部と離島部の平均値と標準偏差およびｔ検定の結果（性別）

| | | 都市部 | | | 離島部 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | SD | n | Mean | SD | n | Mean | SD | t |
| 男子 | 抑うつ傾向 | 215 | 5.6 | 3.32 | 162 | 5.3 | 3.09 | 0.91 | .363 |
| | 対人緊張 | 217 | 6.3 | 2.48 | 158 | 7.3 | 3.05 | −3.36 | .001** |
| | 非効力感 | 208 | 7.0 | 2.95 | 157 | 7.0 | 3.22 | −0.06 | .949 |
| | 衝動性 | 210 | 6.8 | 3.15 | 154 | 6.8 | 3.17 | 0.07 | .943 |
| 女子 | 抑うつ傾向 | 191 | 6.5 | 3.58 | 143 | 6.6 | 3.76 | −0.24 | .807 |
| | 対人緊張 | 192 | 7.2 | 2.91 | 142 | 7.4 | 3.00 | −0.81 | .418 |
| | 非効力感 | 192 | 7.6 | 2.92 | 139 | 6.8 | 2.66 | 2.42 | .016* |
| | 衝動性 | 192 | 6.6 | 3.10 | 143 | 7.0 | 3.22 | −1.07 | .287 |

**$P<.001$,　**$P<.01$,　*$P<.05$

表5．メンタルヘルスとライフスタイルおよび心理社会的学校環境に関する相関分析(地域・性別, Peason)

| | | | 目覚め | 朝食摂取 | 野菜摂取 | 食べ残し | テレビの視聴 | コンピュータ使用 | 運動頻度 | 学校生活 | 学校の居心地 | 学校の一員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男子 | 都市部 (n=221) | 抑うつ傾向 | .297** | .190** | .112 | −.002 | .116 | .117 | −.178** | .288** | .331** | .303** |
| | | 対人緊張 | .234** | .084 | .194** | −.207** | .179** | .164* | −.087 | .206** | .205** | .187** |
| | | 非効力感 | .191** | .193** | .220** | .049 | .155* | .140* | −.231** | .304** | .386** | .381** |
| | | 衝動性 | .275** | .165* | .136* | .110 | .181** | .298** | −.082 | .342** | .366** | .160* |
| | 離島部 (n=168) | 抑うつ傾向 | −.003 | −.012 | −.027 | −.018 | −.054 | .005 | −.008 | .123 | .147 | .038 |
| | | 対人緊張 | .218** | .126 | .155* | −.197 | .054 | −.002 | −.260** | .112 | −.008 | .101 |
| | | 非効力感 | .061 | .088 | .266** | −.241 | .146* | .019 | −.162* | .170* | .258** | .260** |
| | | 衝動性 | .186* | .049 | .132 | −.094 | .269** | .161* | −.060 | .120 | .233** | .101 |
| 女子 | 都市部 (n=195) | 抑うつ傾向 | .069 | .175* | .019 | −.072 | −.013 | .028 | −.083 | .139 | .141 | .304** |
| | | 対人緊張 | .206** | .180* | .184* | −.285** | .100 | .186* | −.223** | .070 | .105 | .256** |
| | | 非効力感 | .232** | .280** | .239** | −.212** | .172* | .323** | −.353** | .104 | .183* | .327** |
| | | 衝動性 | .163* | .264** | .001 | −.133 | .300** | .193* | −.101 | .155 | .262** | .188** |
| | 離島部 (n=149) | 抑うつ傾向 | .343** | .161** | .045 | −.216* | .002 | −.040 | −.163 | .309** | .399** | .266** |
| | | 対人緊張 | .097 | .054 | .145 | −.186* | .022 | −.044 | −.145 | .110 | .117 | .216* |
| | | 非効力感 | .270** | .057** | .275** | −.184* | .166 | .166 | −.139 | .334** | .298** | .340** |
| | | 衝動性 | .297** | −.059 | .056 | −.247** | .231** | .039 | −.100 | .268** | .351** | .188* |

**$P<.001$, **$P<.01$, *$P<.05$

緊張と非効力感の下位尺度で有意な低い相関が見られたのに対し、離島部では有意な相関は認められなかった。これら相関分析の結果を総合的に判断すると、ライフスタイルとメンタルヘルスの下位尺度については、離島部より都市部の方が強い関連があることを示唆していると言えよう。

また、メンタルヘルスと心理社会的学校環境の3項目についてその関連性を見ると、都市部男子においては、3項目ともすべての下位尺度との間に低いながらも有意な相関が認められたのに対し、離島部男子で有意な相関が見られたのは、「学校生活」と「学校の一員」における非効力感および「学校の居心地」における非効力感と衝動性のみであった。他方、この関連性における女子の特徴は、「学校生活」では都市部でまったく有意な相関が見られなかったのに対し、離島部では対人緊張を除く3下位尺度で低い有意な相関があったことと、離島部では、「学校の居心地」と抑うつ傾向の間に有意なほぼ中程度にあたる相関が認められたことである。「学校の一員」の項目では男子の都市部と同様、両地域ともすべての下位尺度で低いながらも有意な相関が認められた。

## Ⅳ．考察

### 1．ライフスタイルと心理社会的学校環境に関する地域比較

ライフスタイルと心理社会的学校環境の地域差に関して、基本的生活習慣に関わる項目では、ほとんどで離島部の子どもの方が良い結果を示していたが、女子においてのみ「学校以外での学習機会」について離島が有意に少ない結果となった。しかしながら、「学校以外の学習機会」の多い方が明確に「生活習慣が良い」と断定することはできず、やはり、総合的にみると離島部の子どもの方が生活習慣は良好と判断できよう。離島部で少子高齢化が都市部より進んでいることを勘案すると、都市部に比べて離島は三世代所帯の割合が多いと推察される。佐藤ら[9]は三世代所帯の方が、核家族世帯よりも朝食を摂取する割合が多いと報告しており、離島部の子どもの生活習慣が良いのは、「三世代所帯」の割合が多いことが考えられる。本調査には、祖父、祖母との同居に関する変数が設けられておらず即座に断定はできないが、都市部、離島部といった地域差ではなく、祖父や祖母との同居が子どものライフスタイルの違いに何らかの影響を及ぼしている可能性は否定できない。また、「地域行事への参加」については、都市部

との間に有意な差が見られ、離島部の子どもの方が地域行事に多く参加していた。多くの質問項目の中で男女とも有意差が認められた数少ない項目でもあり、このことは特筆すべき結果である。鹿児島市と与論町の成人を対象として都市と離島の余暇行動を比較した福満ら[10]の調査では、離島の余暇行動は家族行動型で、近所の友人との余暇活動が多いことを指摘しており、よって、「地域行事への参加」に関して離島部が有意に多かったのは、これら離島部特有の余暇行動が起因になっていると推察される。また、「地域行事への参加」と同様、男女ともに地域間に有意な差が認められた兄弟姉妹数に関しては、幼児の運動能力の地域差を検討する中で、離島は団地や都市よりも平均家族人数が多く、しかも家族構成に幅広い散らばりを示しているとした宗高ら[11]の報告を引用することができよう。すなわち、この報告は先述した離島における三世代所帯の割合が多いことや兄弟姉妹数に関して離島部が都市部よりも有意に多かった結果を裏付ける調査研究として捉えることができる。また、心理社会的学校環境変数に関しては、女子における「学校の居心地」の項目のみで地域間に有意な差が見られた。高倉ら[12]は学校環境－学校満足－自覚症状の因果構造モデルを検討する中で、支援的な学校環境が提供された場合、学校に対する満足度が高まりやすいと述べると同時に、その関連は女子の方が強いと記している。この報告から前述の結果を考察すると、離島部の方が都市部に比べて支援的な学校環境であり、男子に比べて女子の方が学校環境と学校満足の因果関係が強く、よって女子にのみ地域間において有意な差があらわれたと推察することができる。

### 2．メンタルヘルスに関する現状とライフスタイルおよび心理社会的学校環境との関連性の地域比較

男子では対人緊張において離島部が有意に高い値になっており、少人数クラスの弊害を指摘することができる。つまり、都市部では、普段からまわりに多くの友人がおり、特定の一人二人の友人を強く意識することなく学校生活を過ごすことが可能であるが、離島部では、一旦、友人関係が壊れてしまうと他の友人を持つことが困難であるため、日常的に対人緊張が高まっているのではないかと推察される。小林ら[13]の小学校高学年を対象にした先行研究において、「女子において対人緊張や衝動性で離島部（竹富町）は都市部（東京23区）より有意に高い値になる」との調査結果があるが、今回は女子には有意な差が見られず、男子において前述の結果が表出している。この点に関する理由は本研究のデータからは明らかにできないが、これら二つの研究結果を併合すると、小学校高学年という発達段階における離島部の子どもの「対人緊張」については都市部とは異なる何らかの様相を有するのではないかと推察される。それに反して、女子においては非効力感で離島部が有意に低い値になっており、メンタルヘルスが良好な結果となった。非効力感は自尊感情との高い負の相関関係を示唆したり[14]、自尊感情のある側面を測定したりするものとして使用している研究[15]もあることから、現時点ではこれらの原因について明らかにできないが、離島部女子では、都市部と比べて自尊感情の高い子どもが多いと考えられる。

メンタルヘルスとライフスタイルとの関連について、４つの下位尺度と「目覚め」から「運動頻度」の質問項目に至る28の相関分析の結果、低いながらも都市部男子では、19の項目で有意な相関が見られたのに対し、離島部では９つのみの項目でしか有意ではなく、同様に都市部女子では、18項目で有意な相関が認められたのに対し、離島部では11項目であった。回答番号を直接得点化し分析に用いているため、解釈には限界があるが、このような差異は、都市部と離島部の関連性についてその強弱が存在し、都市部の子どもの方がメンタルヘルスとライフスタイルの関連性が強いことを示唆する一つの視点であろう。加えて、都市部の男子と離島部の女子でメンタルヘルスと学校満足（学校生活、学校の居心地、学校の一員）の間に、ほとんどの項目で有意な相関が見られ、子どものメンタル

ヘルスに対する学校満足の重要性が示唆された。今後、更に研究手法を工夫して同様の研究を継続・発展させ、これらの詳細な解明を図る必要がある。

## V. まとめ

本研究では、離島における子どもの基本的なライフスタイルと心理社会的学校環境（学校満足）およびメンタルヘルスに関する実態を明らかにするとともに、ベースラインデータを記述し、その関連を検討した。

ライフスタイルに関しては、離島部の子どもの方が、男子において起床時刻が早く、コンピュータ実施時間は少なく、親との外遊びや運動時間が少なかった。女子においては、入眠時刻が早く、食事の残量が少なく、授業以外の運動時間が多く、学校以外での学習機会は少なく、成績の自己認知が良かった。また、男女とも、離島部の方が、兄弟姉妹数が多く、地域行事の参加頻度が高かった。ライフスタイルを総じると、離島部の子どもの方が良いと判断できた。心理社会的学校環境に関しては、女子の「学校の居心地」で有意な差が見られ、離島部の子どもの方が「学校は居心地が良いところだ」と認知していた。また、メンタルヘルスについて、男子では対人緊張で有意な差があり、離島部の子どもは都市部と比較して相対的にあまり良くない結果であった。他方、女子では非効力感で有意差が認められ離島部が良好であった。離島部は少人数クラスが多いことから、今後、対人緊張についてはさまざまな研究レベルで着目していく必要があろう。また、離島部女子は自尊感情が高いことが推察され、その原因を探り、今後教育方法に生かす方向性が求められよう。さらに、メンタルヘルスとライフスタイルおよび心理社会的学校環境との関連について、男女において低いながらも有意な相関が認められた項目が多くあった。子どものメンタルヘルスに対する学校満足の重要性をより認識するとともに、この種の調査研究には限界があるものの、都市部と離島部におけるメンタルヘルスとライフスタイルの関連性については、調査対象を拡大し研究手法や内容を変えながら論究していく必要があるだろう。

## 文　献


1）小林稔,髙倉実,小橋川久光,吉葉研司：沖縄県離島地域における子どものメンタルヘルスとライフスタイルおよび体力の関連. 鹿児島大学多島圏研究センター南太平洋海域調査研究報告, 45：47-50, 2006

2）田原靖昭,山内正毅,中山雅雄：長崎県五島列島中部島嶼地域の児童・生徒の体格・体力の特徴. 鹿児島大学多島圏研究センター南太平洋海域調査研究報告, 45：51-55, 2006

3）Hawkins,J.D.,Catalano,R.F.：Broadening the vision of education：schools as health promoting environments. J. Sch. Health 60：178-181, 1990

4）Rudd, R. E., Walsh, D. C.：School as healthful environments：prerequisite to comprehen-sive school health? Prev. Med. 22：499-506, 1993

5）Samdal, O., Nutbeam, D.,Wold, B., et al.: Achieving health and educational goals through schools：a study of the importance of the school climate and the students' satisfaction with school. Health Educ. Res. 13：383-397, 1998

6）Torsheim, T., Wold, B.：School-related stress, school support, and somatic complaints：a general population study. J. Adolesc Res. 16：293-303, 2001

7）Takakura, M., Wake, N., Akamine, Y.: Psychometric property of health complaints and school setting measure in the Japanese version of the WHO Health Behavior in School-aged Children Study. Ryukyu Med. J. 21: 77-81, 2002

8）青木紀久代：短縮版お茶大式学校メンタルヘルス尺度の作成. 青木紀久代(編), 幼児期から青年期までのメンタルヘルス縦断研究 -心理的援助のためのアウトリーチ・プ

ログラムの構築- 第二次報告書：85-89, 2005
9）佐藤泰一,佐藤昭三,青木繁伸,鈴木庄亮：児童・生徒の生活と健康-都市と農村の比較(1) 家庭生活-. 学校保健研究, 35：557-566, 1993
10）福満博隆,山本清洋：余暇行動に関する分析-都市と離島の比較-. 鹿児島大学教育学部研究紀要人文・社会科学編, 50：57-69, 1998
11）宗高弘子,松浦義行,宗高平八：幼児の運動能力の地域差について -離島、団地、都市の場合-. 体育学研究, 16(2)：91-97, 1971
12）髙倉実,小林稔,宮城政也,小橋川久光,和氣則江,岸本梢：小中学生における心理社会的学校環境と自覚症状との関連性の構造化 -WHO Health Behavior School-aged Children Study-. 学校保健研究, 48(1)：18-31, 2006
13）小林稔,髙倉実,和気則江,岸本梢,宮城政也：離島地域における子どものライフスタイルとレジリエンスの実態およびその関連について -沖縄県竹富町の小学４～６年生全員を対象として-. 第53回学校保健学会講演集, 330-331, 2006
14）小林稔, 髙倉実, 和気則江,岸本梢,青木紀久代,山脇澄子： 心理社会的学校環境およびライフスタイルが中学生のメンタルヘルスに及ぼす影響. 青木紀久代(編)幼児期から青年期までのメンタルヘルス縦断研究 -心理的援助のためのアウトリーチ・プログラムの構築- 第二次報告書：90-95, 2005
15）Shisslak, C. M., Crago, M., Renger, R., Clark-Wagner,A.: Self-esteem and the prevention of eating disorders. Eating Disorders 6：105-117, 1998

（付記）

本調査にあたっては、長崎県と沖縄県の多くの児童のみなさん、また学校関係者ならびに保護者や教職員の方々にご協力をいただきました。記して感謝の意を表したいと思います。どうもありがとうございました。

なお、本研究は、2005～06年度文部科学省特別教育研究経費措置事業「新しい時代の要請に応える離島教育の革新（長崎－鹿児島－琉球、三大学連携事業)」により行なわれたものである。